

日本SOHO協会  
研究助成

高校時からの自立意識の養成プロセスにおける課題研究  
(東京都内普通科高校キャリア教育に関するアンケートから)



公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩

## ■はじめに

本報告書は、一般財団法人日本SOHO協会の研究助成制度を活用し、実施した研究の結果をまとめたものです。

### ①研究の背景

近年になってキャリア教育や起業教育が初等中等教育においてもなされるようになってきたが、高校は義務教育ではないため、各学校の自由度が高くどのような教育がなされているのかデータが多くはない。そこで、今回は都内の普通科高校において、キャリア教育の実態や起業教育の動向や事例を調査し、問題提起を行うものである。

### ②研究目的

キャリア教育の中で、起業家教育は早期に行うほど、効果はあるものと考えられるが、キャリア教育の中に体系的に位置づけられることが必要である。とくに、進路の具体的な選択のタイミングである高校時代に起業家としての選択肢も認識させておくことは重要である。そこで、キャリア教育の実態、その中における起業家教育の状況を研究し、大学等の起業プログラムとの接続性についても考えることが必要である。本調査によって、大学、大学コンソーシアムとしての高校教育の支援策を検討する。

## ■キャリア教育について

まずはじめに数ページでキャリア教育に関する背景情報をまとめます。

### ●キャリア教育の提唱と経緯

キャリア教育の登場 我が国において「キャリア教育」という文言が公的に登場し、その必要性が提唱されたのは、平成11年12月、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」においてであった。同審議会は「キャリア教育を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある」とし、さらに「キャリア教育の実施に当たっては家庭・地域と連携し、体験的な学習を重視するとともに、各学校ごとに目的を設定し、教育課程に位置付けて計画的に行う必要がある」と提言している。この答申を受け、キャリア教育に関する調査研究が進められ、平成14年11月には、国立教育政策研究所生徒指導研究センターが「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(調査研究報告書)」を報告した。同調査研究報告書は、子どもたちの進路・発達をめぐる環境の変化について、数々のデータを基に分析し、「職業観・勤労観の育成が不可欠な『時代』を迎えた」とし、さらに、学校段階における職業的(進路)発達課題について解説するとともに、「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」を示した。一方、学校における教育活動が、ともすれば「生きること」や「働くこと」と疎遠になったり、十分な取組が行われてこなかったりしたのではないかとの指摘も踏まえ、同年、文部科学省内に「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」を設置し、平成16年1月には、その報告書「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために」を発表した。この間、国は、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣、経済財政政策担当大臣の関係4閣僚による「若者自立・挑戦戦略会議」が、平成15年6月に「若者自立・挑戦プラン」を策定し、目指すべき社会として、「若者が自らの可能性を高め、挑戦し、活躍できる夢のある社会」と「生涯にわたり、自立的な能力向上・発揮ができ、やり直しがきく社会」をあげ、政府、地方自治体、教育界、産業界が一体となった取組が必要であるとした。キャリア教育の推進は、その重要な柱として位置付けられた。その後平成18年には、内閣官房長官、農林水産大臣、少子化・男女共同参画担当大臣も加え、「若者の自立・挑戦のためのアクションプラン(改訂)」が策定され、キャリア教育のさらなる充実を図ることとした。

## ■初等～高等教育におけるキャリア教育とは

- キャリア教育は職業教育と並行して行われるべきとされている

### キャリア教育

一人一人の社会的・職業的自立に向け、  
必要な基盤となる能力や態度を育てること  
を通して、キャリア(注1)発達を促す教育  
幼児期の教育から高等教育まで発達の様  
々な教育活動を通じ、基礎的・汎用的  
能力(注2)を中心に育成

(注1) キャリア: 人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や  
自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね

(注2) 基礎的・汎用的能力: ① 人間関係形成・社会形成能力 ② 自己理解・自己管理能力  
③ 課題対応能力 ④ キャリアプランニング能力

### 職業教育

一定又は特定の職業に従事するために  
必要な知識技能能力や態度を育てる教育

セットで必要

今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)平成23年1月より

# ■起業家教育について

## ●背景

地域の担い手となる新しい企業の育成と日本経済を牽引する新しい産業の創出のためには、起業家マインドを持った人材を育成することが重要です。政府の成長戦略である日本再興戦略改訂2014では、ベンチャー企業を支える国民的な意識改革のために、起業家教育の充実を掲げています。

また、教育の観点からは、「生きる力」の育成や、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り拓いていく力等を育成していくことが求められています。このような状況の中、今、初等中等教育段階における起業家教育が注目されているのです。

## ●定義

起業家精神(チャレンジ精神、創造性、探究心 等)と起業家的資質・能力(情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力 等)を有する人材を育成する教育です。起業家や企業経営者だけに必要な特殊なものではありません。高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら、新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きていくために必要な力の育成のために起業家精神と起業家的資質・能力の育成をするための教育です。

## ●目的

現行学習指導要領(平成20年・21年改訂)においては、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指しています。

起業家教育は、「課題発見・解決能力」「創造性」「感性、思いやり、意欲、多様性を受容する力」といった、これからの時代に求められる力の育成と方向性を共有するものです。こうした教育を進めることは、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)の充実にも寄与するものと考えられます。

# ■都立高校におけるキャリア教育支援の取組について

- 地域教育推進ネットワーク東京都協議会による都立高校支援が行われている。

「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」は、子供たちの教育活動に、企業、大学、NPO等の専門的な教育力を効果的に導入するためのネットワークづくりを目指しています。子供たちが多様な大人と出会い、新しい体験をする中で、社会性を育み、積極的に学ぶ意欲を持てるような教育環境の整備を目指して様々な活動に取り組んでいます。

## 設立の経緯

東京都教育委員会は、第5期東京都生涯学習審議会答申「子ども・若者の『次代を担う力』を育むための教育施策のあり方について～『地域教育プラットフォーム』構想を推進するための教育行政の役割～（平成17年1月）」を踏まえ、「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」を、平成17年8月5日に設立しました。

## 参考「東京都生涯学習審議会答申・建議」

東京都教育委員会では、第5期生涯学習審議会に「子ども・若者の『次代を担う力』を育むための教育施策のあり方について～社会教育行政の再構築に向けて～」を諮問しました。

これを受けて、第5期生涯学習審議会は、平成17年1月に答申を発表しました。答申では、外部の教育力を学校教育に導入するなど、地域における子供・若者に対する教育活動を学校教育との計画的な連携の下に展開していくことを目的とした「地域教育プラットフォーム」構想を提言しました。この提言が具体化し、「地域教育推進ネットワーク 東京都協議会」の設立となりました。

また、第6期生涯学習審議会から、平成18年11月に建議「東京都におけるこれからの地域教育の具体的方策について～子どもたちによりよい教育環境を提供するために～」を東京都教育委員会は受けました。

この建議は、第5期生涯学習審議会答申の内容を受け、東京都教育委員会が今後取り組むべき施策のあり方について、より具体的方策を扱ったものです。東京都における今後の地域教育推進方策のあり方のひとつとして、「地域教育推進ネットワーク東京都協議会に期待される取組」が提案されています。

# ■ 普通科高校キャリア教育に関するアンケート

今回都内普通科高校にアンケートを実施したところ、116校の協力を得ることができ、十分な回答数が集まった。以下、公立、私立に分けて、まとめたものである。

実施・・・2016年12月

回答数・・・116校

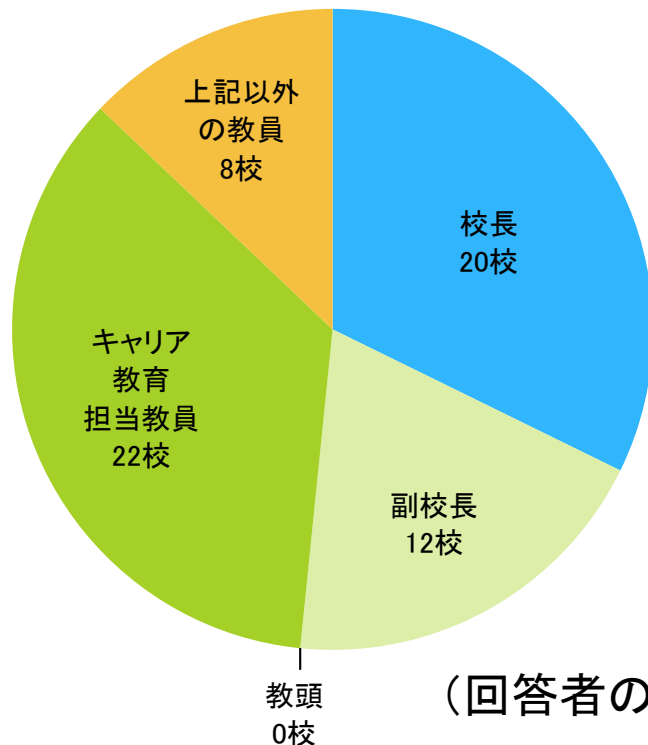
公立高校・・・62校

私立高校・・・53校

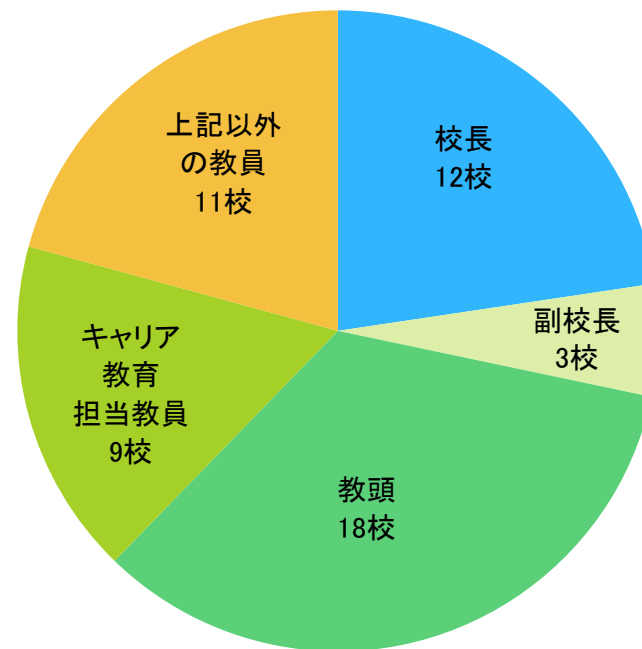
無回答・・・1校

## 回答者の立場

### 公立



### 私立



(回答者の立場コメント その他)

キャリア教育の授業を担当している

進路指導主任

進路指導部

進路指導部長

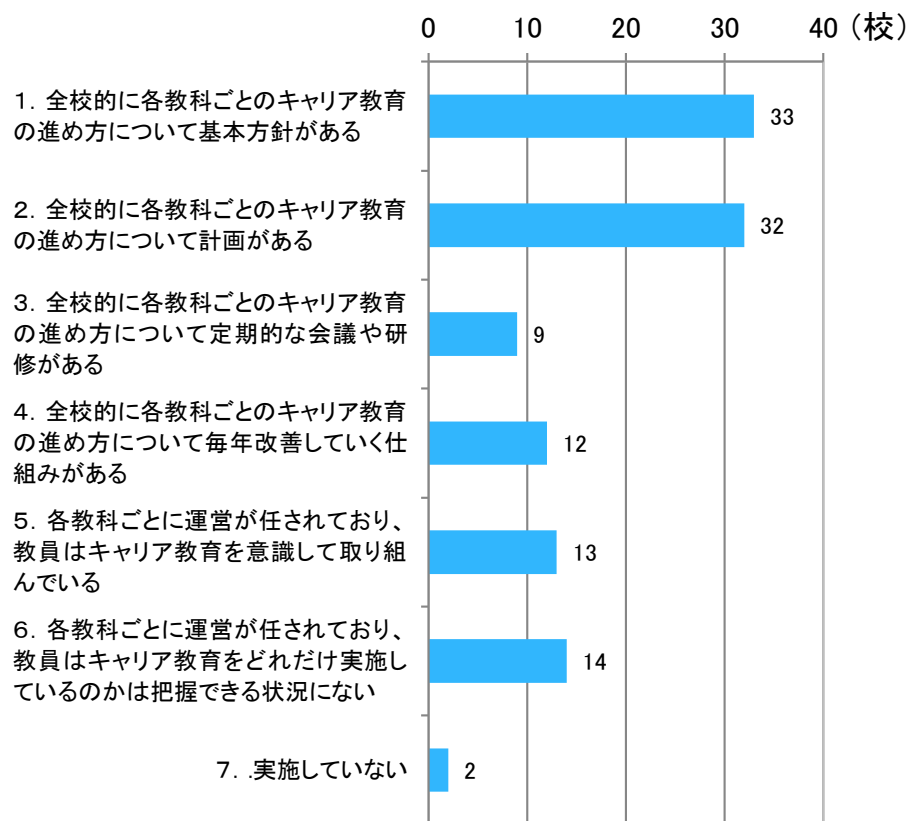
教務

進路部長

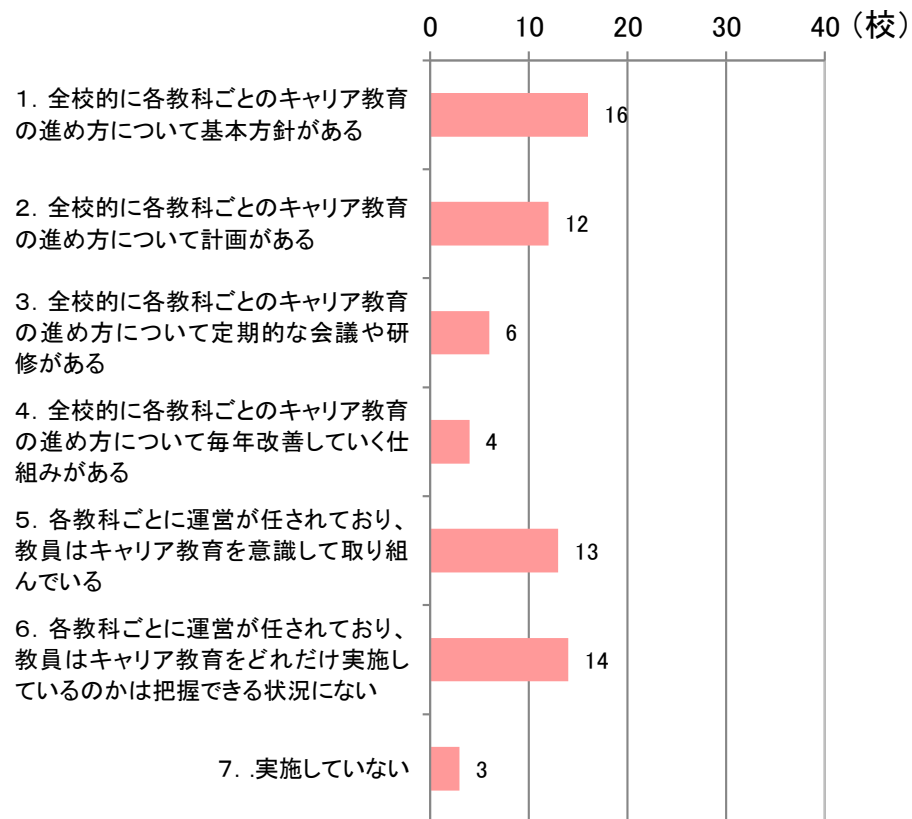
# ■キャリア教育実施の現状について (複数回答)

方針、計画には差があるものの、公立私立とも、同一の傾向を示している。

## 公立



## 私立

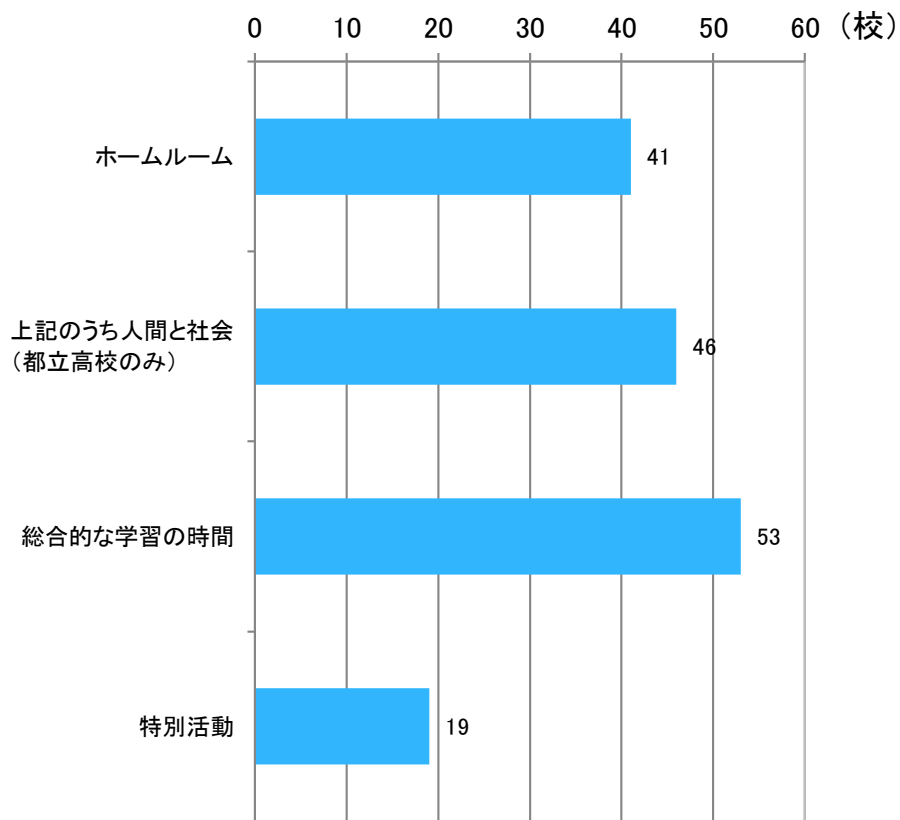




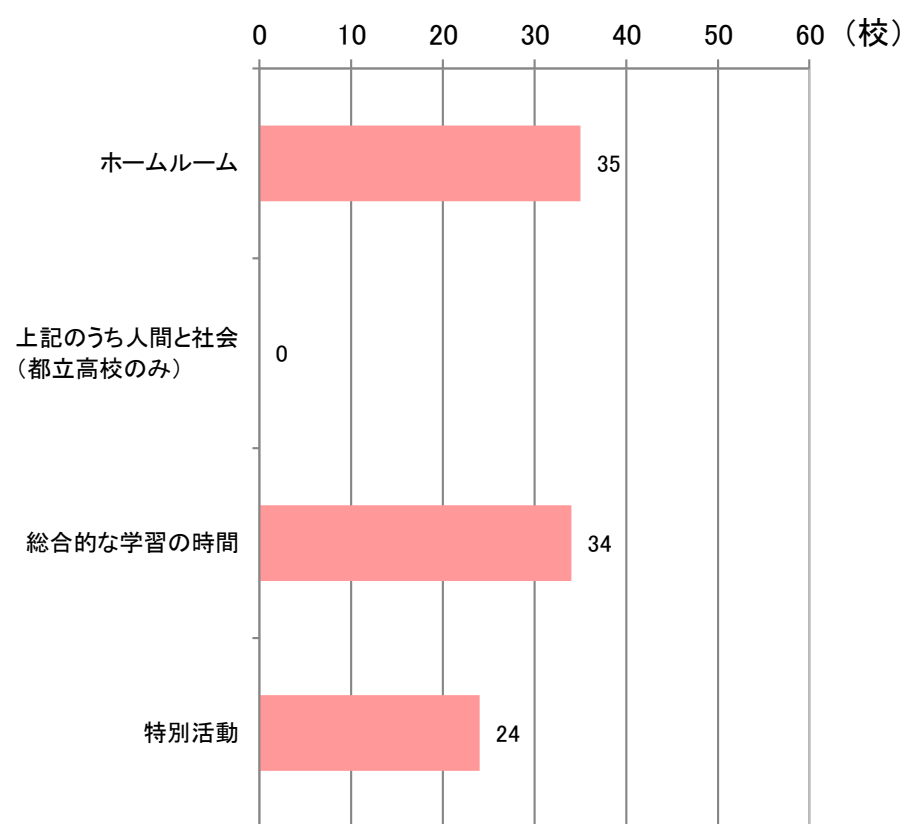
## ■キャリア教育を主要な科目として取り組んでいる授業について (複数回答)

都立高は28年度から人間と社会の科目の中でキャリア教育が実施されている。

### 公立



### 私立

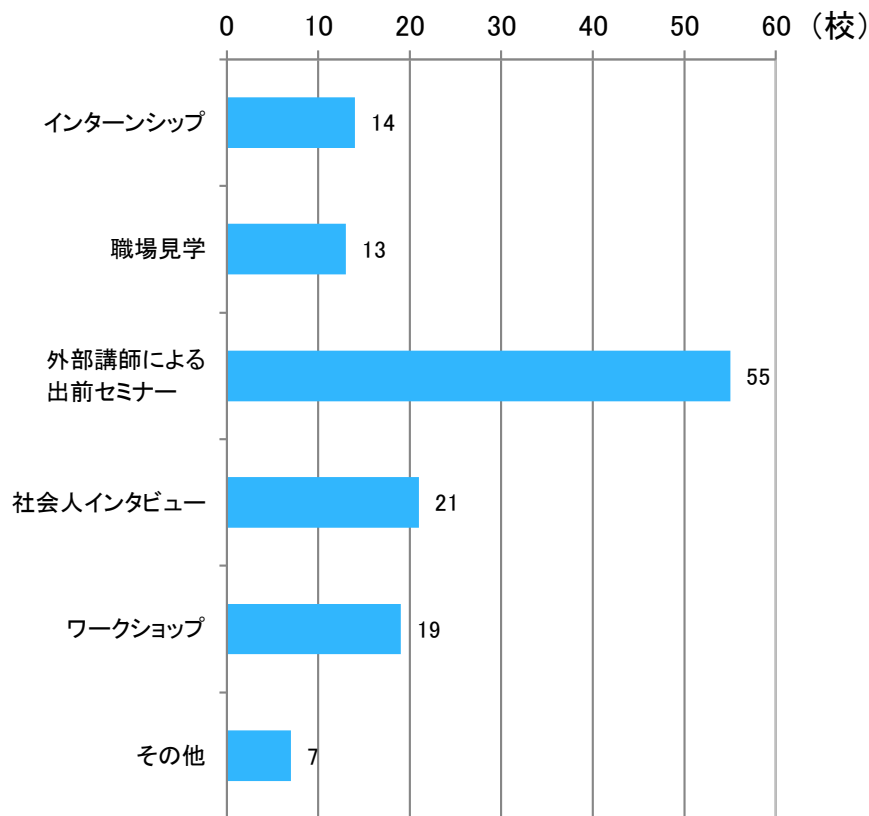


教科と言われると特定の教科はない。

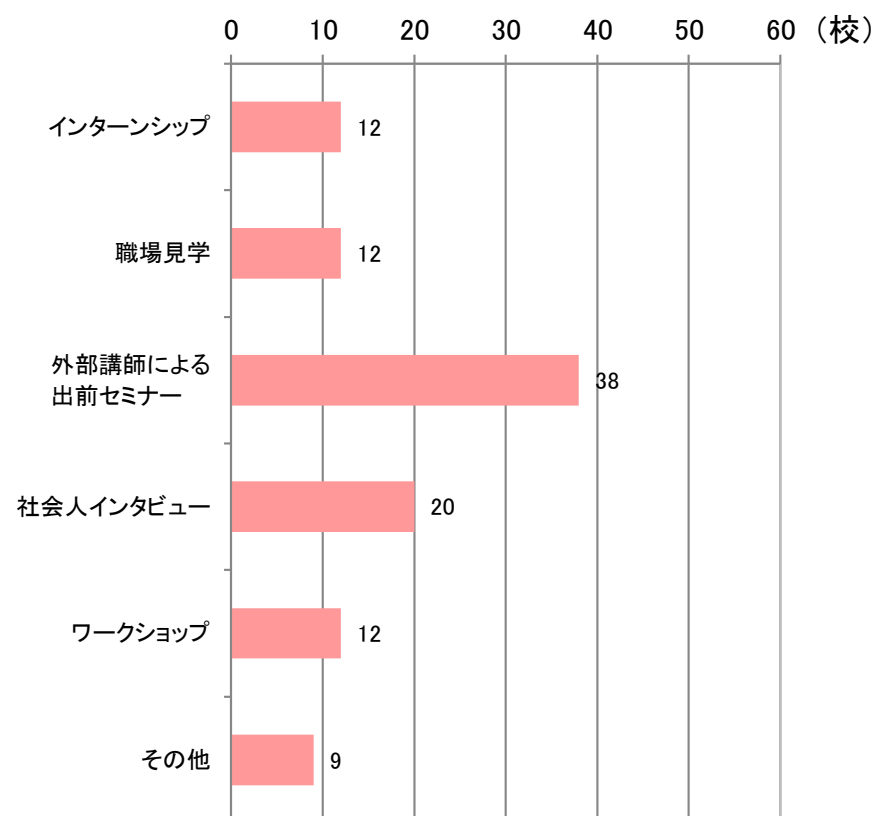
## ■キャリア教育の実施内容について (複数回答)

公立高校は、地域教育推進ネットワーク東京都協議会の活用ができるため外部講師の招致が行いやすい。

公立



私立



# キャリア教育の実施内容について コメント

## 公立

一年生全員対象に三日間のインターンシップを実施している

金銭基礎教育、社会人基礎力W.S.

トーキョー 学生図鑑

将来の進路を構想するための、職業や大学を調べる等。

コミュニケーション能力向上の取組(グループ・エンカウンター等)

オープンキャンパス

学校外の“学修”、病院、保育園、大学、専門学校

分野別に講師が内容を説明

コミュニケーション能力養成、プレゼンテーション能力養成など。

クエストエデュケーションに参加

社会人による講話やインタビューを通して職業についての関心をもたせ、それに必要な学びとは何か、それを学べる所の選び方などのセミナーを行っている。

卒業生(同窓会が協力)による講演会など

大学の出張講義

看護体験 救命救急講習 災害時の対応

地元地域の伝統・文化行事への参加

農業体験学習(1年→新潟県(2泊3日) 2年→青森県(3泊4日))

OB,OGによる職業人講話 等

## 私立

自己分析(一年生対象)

キャリアガイダンスというOBOGが来校して多業種の仕事の話聞く機会を設けている

大学訪問

卒業生による職業紹介

進路ガイダンスで卒業生の社会人の話を聞く

インターンシップ及びボランティアは飯田橋ハローワークの協力を得て協力企業等の紹介を得ている。

職業選び、大学選びに関する講演 等

高一において、社会で活躍している卒業生に仕事の内容について話をしてもらっている。

各NPOを訪れてインタビューし、その結果をプレゼンテーション

旅行会社、テレビ局、ホテル、デパート

各大学から講師を派遣していただき、セミナーを開いている。

卒業生を中心に、キャリアアドバイスをしてもらっている。

外部の催しに参加

進路適性検査、上級学校訪問

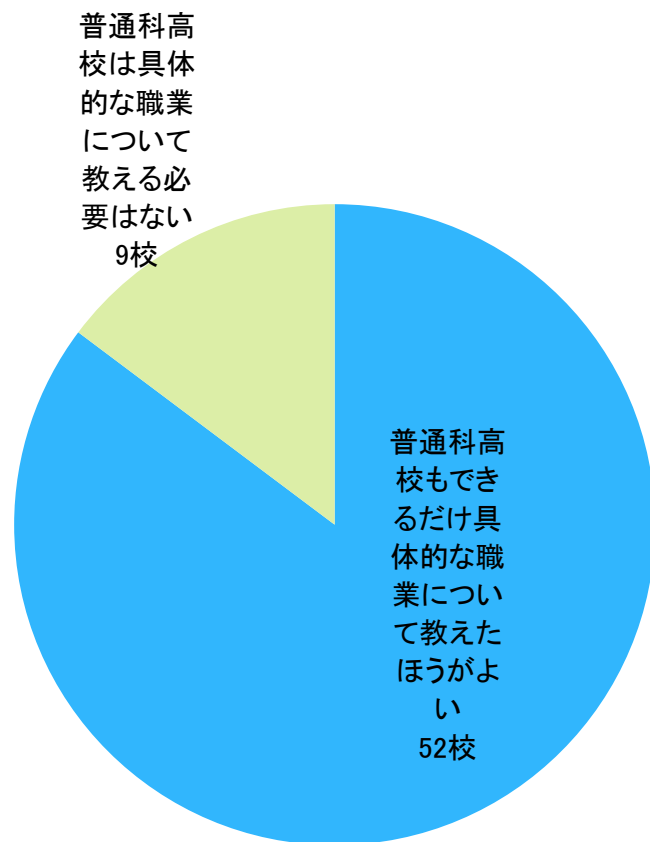
社会人・大学生講師の方に来てもらっている。

外部機関のプログラム実施

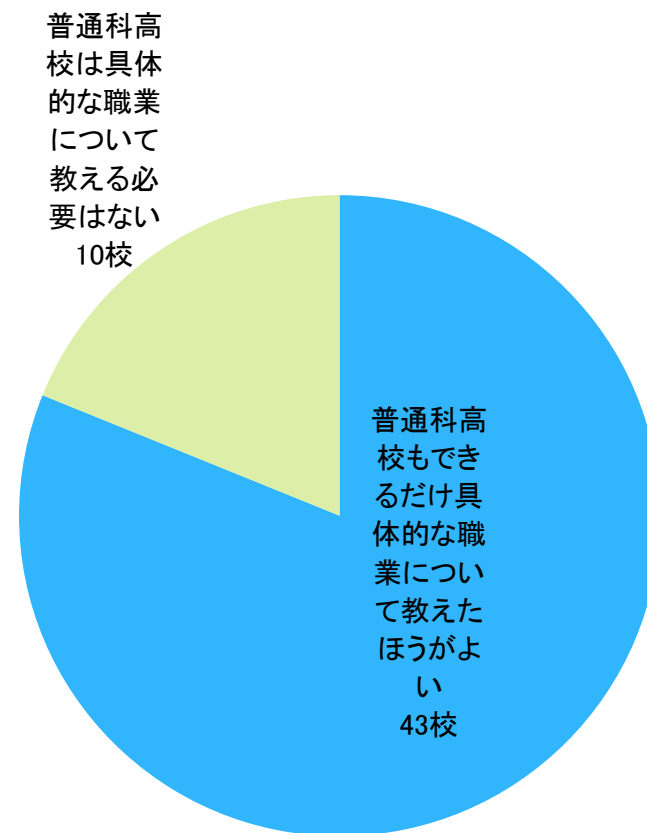
2学年生徒が全員、専門学校にて、職業を意識しての体験学習を実施。

## ■ 普通科高校の個別具体的な職業教育について

### 公立



### 私立

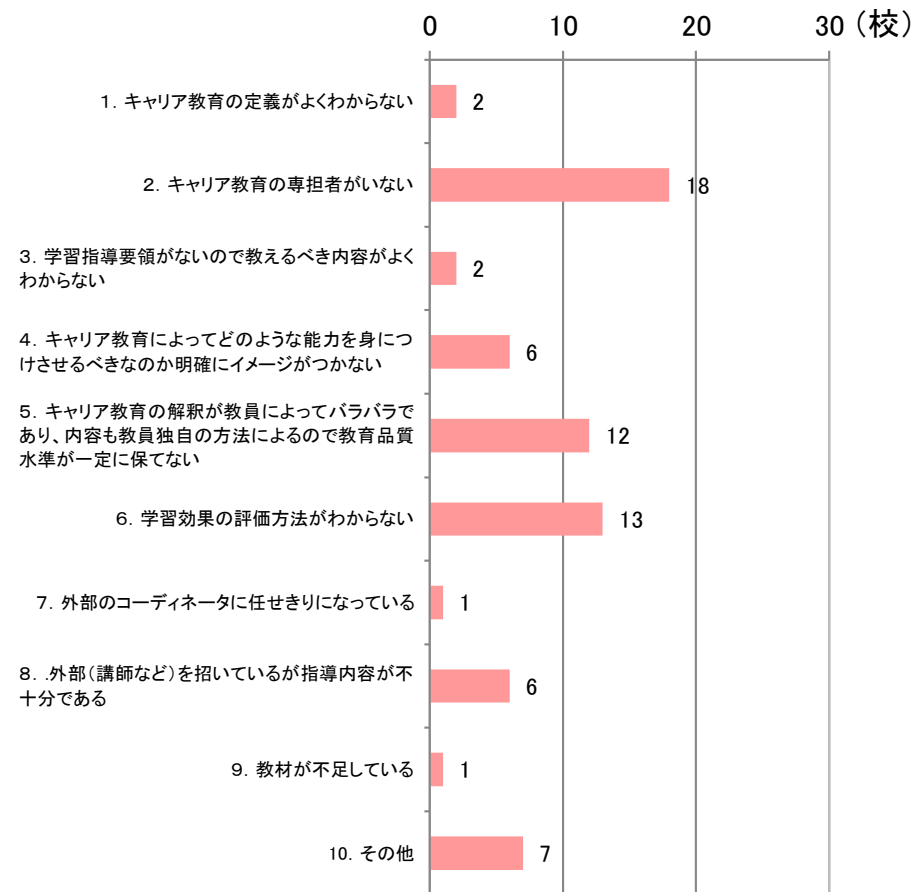
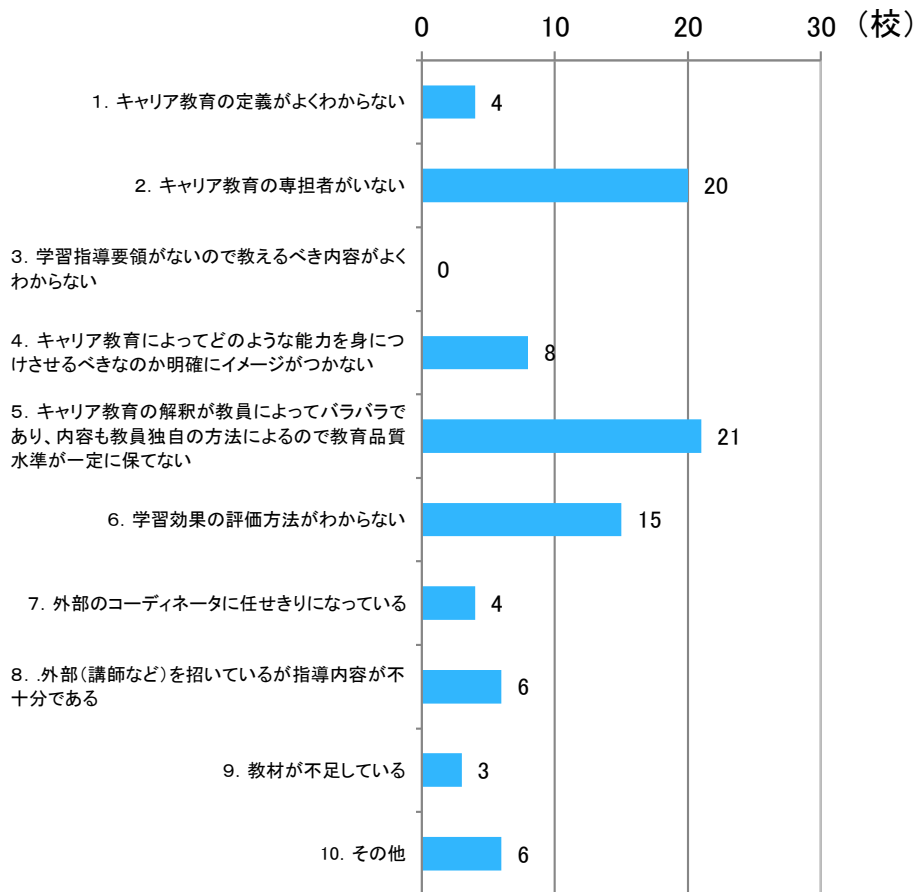


## ■キャリア教育の課題について (複数回答)

公立、私立ともに、専担者の不在、教育品質の水準、評価方法が課題と認識されている度合いが高い。

### 公立

### 私立



# ■キャリア教育の課題について コメント

## 公立

教員が、キャリア教育の教育を受けていない。

職業紹介のようになっている。教科学習、生き方へおとし込みたい。

中高一貫校のため、6カ年計画で実施しているが、高校3年生の夏以降のキャリアセミナーに、どのような内容を設定すべきか、悩むことがある。

職場見学先、インターンシップ先の確保

時代として20年後30年後を想像できない

実施形態に課題あり(講話に対する集中力に欠ける、など)

講師による差が大きい

担当教員の多忙さ

キャリア教育コーディネーターの数が不足(人手不足)

学年単位で3年間の見通しが不十分

まず大学進学優先になるので、将来のことを考える視点があまり強くない

## 私立

専任をつける余裕がないので教務部と進路部で分担している。

生徒に応じた内容で各教員が考えるべきです。

コンセンサスのとれてない分野がある。

生徒にどれほど、届いているか

生徒の希望する分野の方が必ず来るとは限らないため。

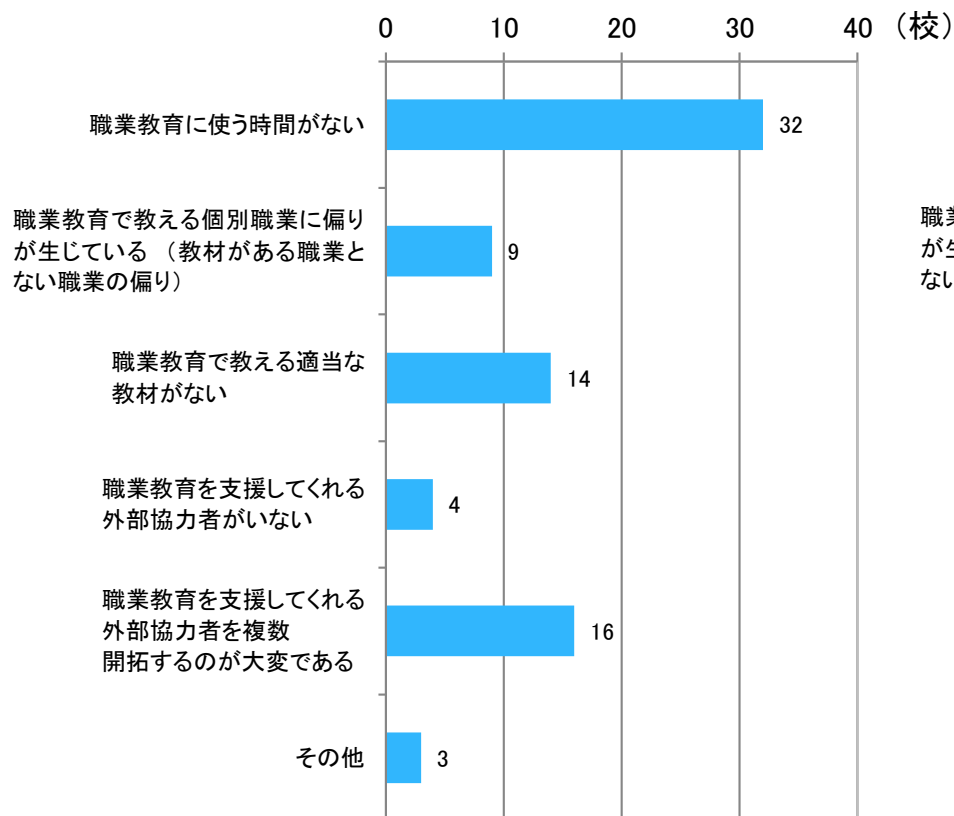
担当者と担任の理解の深さのギャップ

行うべき教育活動が多岐にわたる為、実施に充てる特別な時間がなかなかとれない。

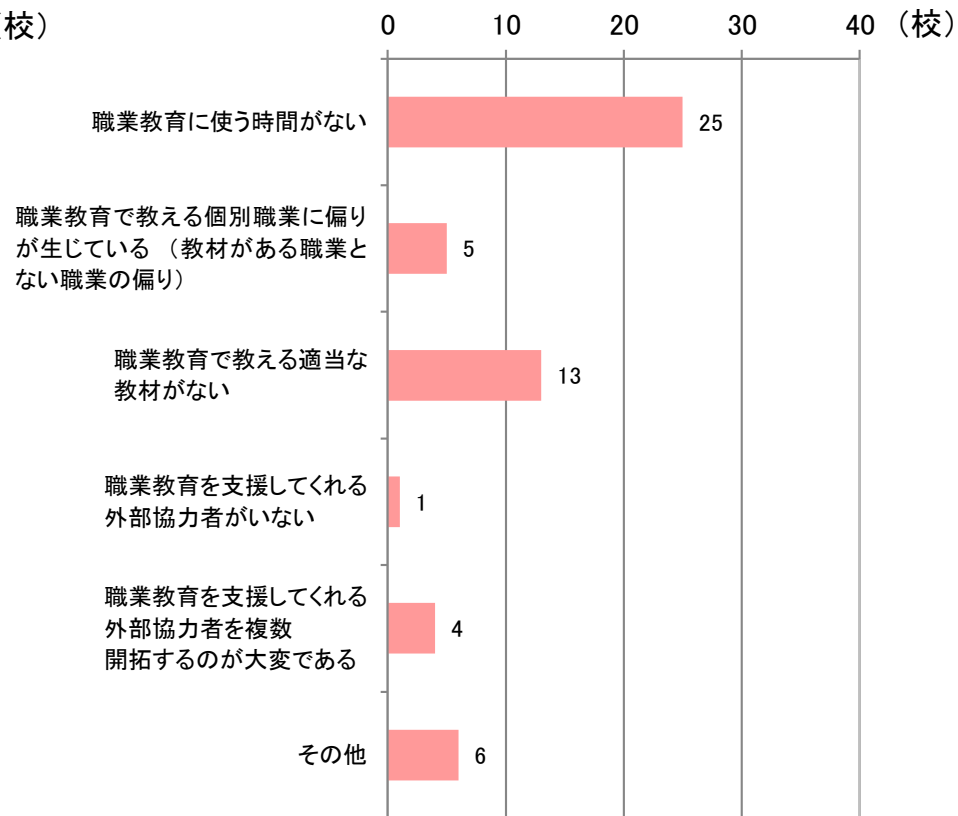
## ■個別具体的な職業教育の課題について (複数回答)

公立私立共に職業教育の時間がないと指摘されている。

公立



私立



## ■個別具体的な職業教育の課題について コメント

### 公立

学校レベルで、必然性が違う。4①の二択にその他がないのは実態をふまえている 質問に思えない。

現状の取組で十分

### 私立

本校では、OB・OGの所属する企業・官公庁等に職場訪問を依頼しているが、数的に制約があるのが課題かもしれません

課題なし

毎年就職希望者がいないので、特に就きたい職業を考えさせている。

特になし

特にありません

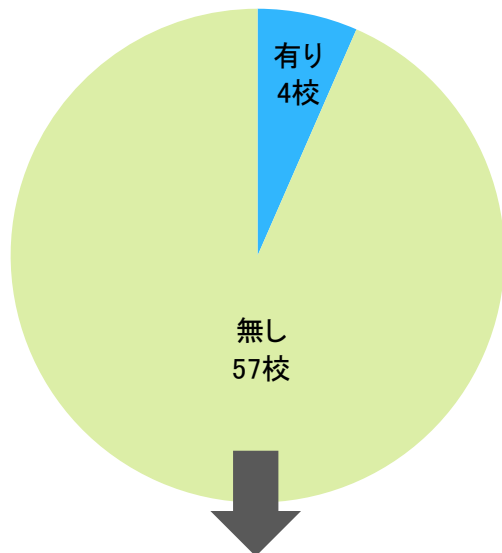
学年、教科の企画があるが、担当者の継続性が不安。



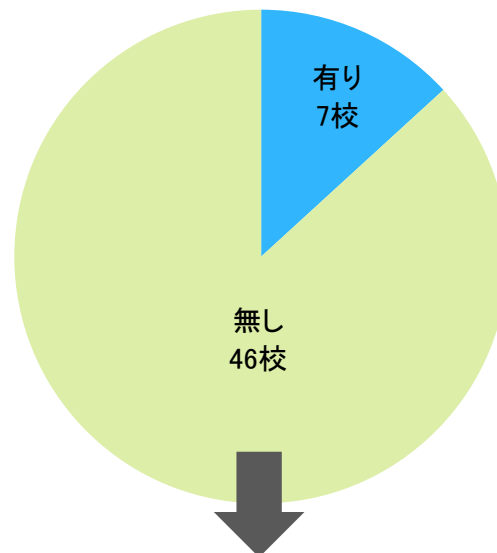
## ■起業家教育の実施の有無

起業家教育の実施度は私立のほうがやや高い

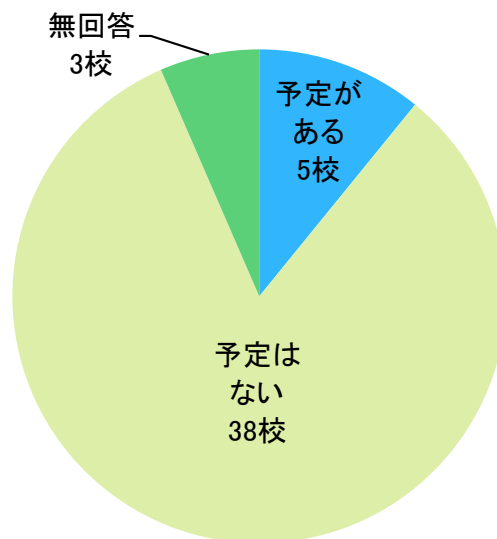
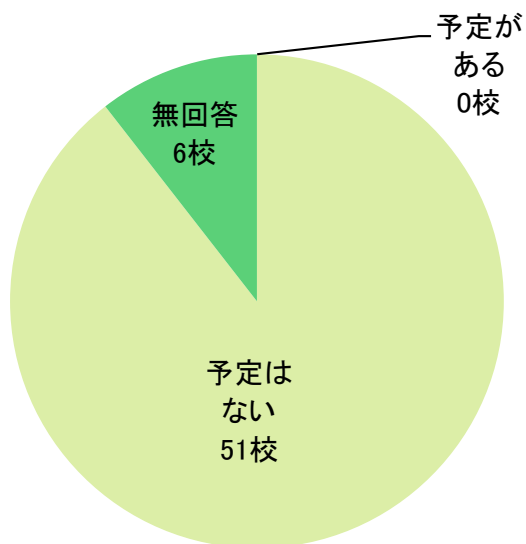
公立



私立



「無し」を選択した高校の今後の取り組む予定



## ■ 起業家教育の実施の有無 コメント

### 公立

ものづくり中小企業の経営（製品開発と起業）  
1年生入学後のオリエンテーションで講演会  
ロータリークラブにより、職場見学・体験  
先輩から学ぶ

### 私立

文化祭での起業体験プログラム/アントレプレナーシッププログラム（学外出店）  
卒業で起業している方の講話会  
商品開発  
様々なビジネスプランモデルのコンペなどに出場しているジュニアアチーブメントのジョブシャドウに参加している。  
海外研修の一環として実施  
特別講義（大学の先生の出前授業）で、起業するには、というものあり。ただ年に1回

## ■ 「無し」を選択した高校の今後の取り組む予定

### 公立

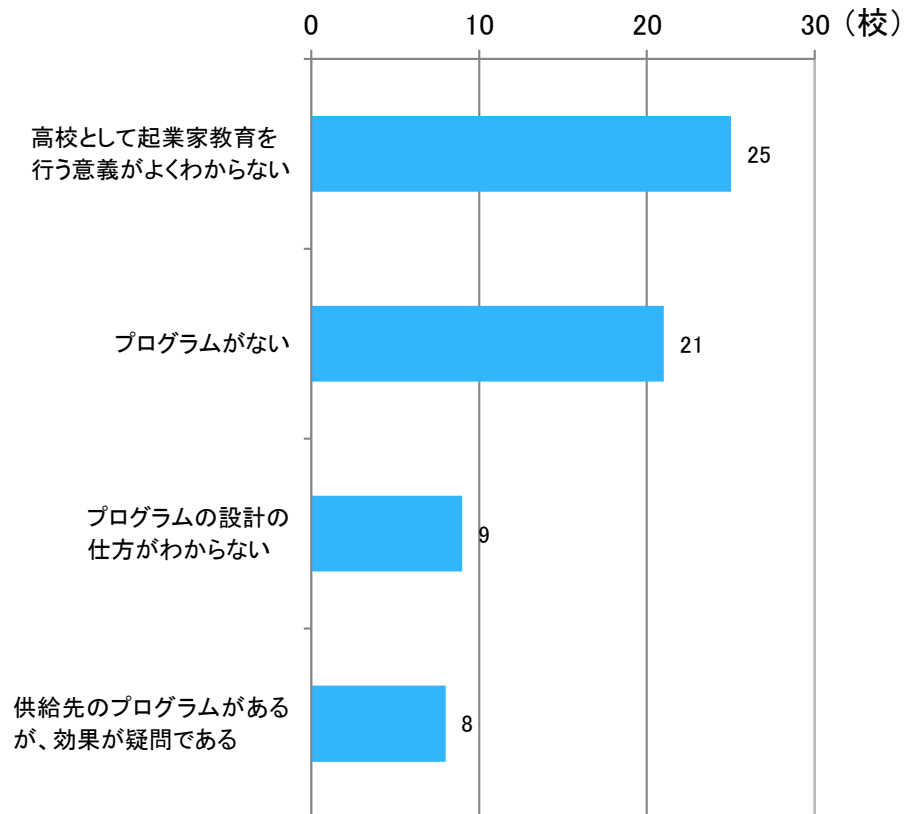
### 私立

なし  
予定あり。  
すでに生徒がイベントに参加している。  
やってみたい気もする  
未定

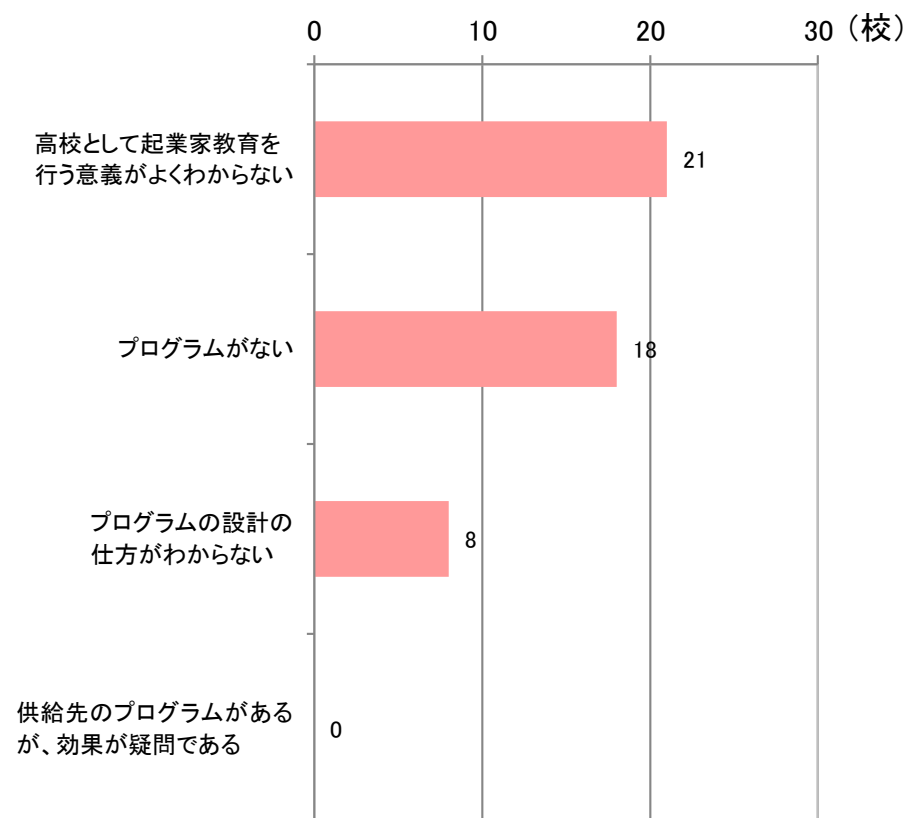
## ■起業家教育の課題について (複数回答)

公立私立ともに、実施意義についての浸透が不足している。

公立



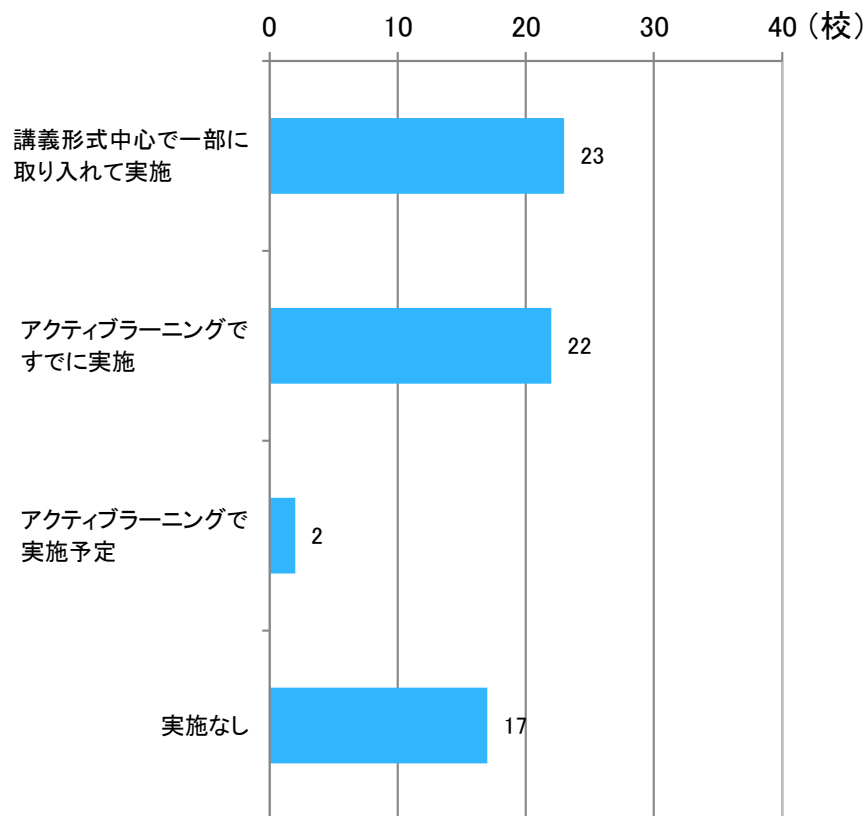
私立



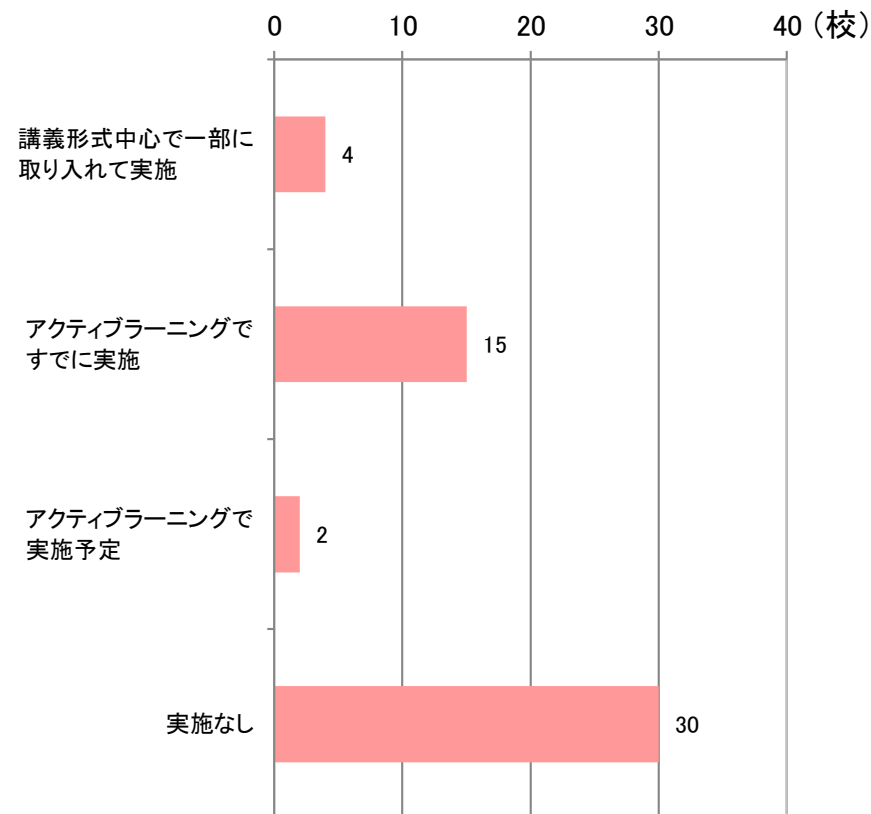
## ■ キャリア教育のアクティブラーニング実施について (複数回答)

教育庁の推進もあり、公立で先行して実施されている。

### 公立



### 私立



# ■キャリア教育のアクティブラーニング実施について コメント

## 公立

上級学校調査、発表、意見交換  
ワークショップなど  
外部の協力機関の講演では、部分的にALあり。  
面接でされる質問、言葉づかい  
AL的手法は随所にとりいれている  
大学・専門・企業 説明会、進路ガイダンス  
職業人インタビュー(「16歳の仕事塾」)  
人間と社会において、演習を行う  
消費者教育  
職業調べ 学部ガイダンス  
進路ガイダンス(分野別会)  
職業分類(職業を知る)  
自己PRの作成と話す練習  
職業や大学調べ等は、基本的にALで行う。  
カタリバ等  
生徒主体の活動を様々な機会で開催している。  
外部機関  
学ぶ意義、働く意義など、職業調べ  
大学出張講義  
ワークショップなどで実施している。  
クエスト、下級生への学校紹介、職業人インタビュー  
各講義の中に取り入れている(大学生を含む外部講師による)  
マナープランゲーム  
職業ガイダンス  
卒業生(社会人)と語る会  
グループワーク  
体験型ワークショップ  
生徒の主体的な活動を中心に担当する教員によって相違、取り入れていない教員も少なくない。  
調べる学習、発表。  
グループワークを実施している  
学部・学科研究  
作業やグループワーク担当する教員によって相違、取り入れていない教員も少なくない  
職業人講話後のディスカッションや発表  
面接練習  
未定

## 私立

外部講師の講義中心  
説明は講義形式だが、あとはグループディスカッション、発表、感想文作成など  
NIE(news in education)  
グループ討論・職場体験・懇談会  
自分の未来さがし  
各教科アクティブラーニングを念頭に研究授業を実施  
グループワーク、企画、プレゼンなど  
女性の生き方、NPO探検隊  
社会などの授業内でPBLによる  
未来の履歴書作成  
職業観育成講座の実施  
社会人によるもの・リクルートや、卒業生と。  
プログラムに沿って実施  
講師に自ら考えた質問をする  
“先輩等、社会人より話を聴く。質疑。(職場 研究室)見学。”  
各教科、教員でまず取り組んでみる  
検討中

# ■大学、大学コンソーシアムの支援希望について (複数回答)

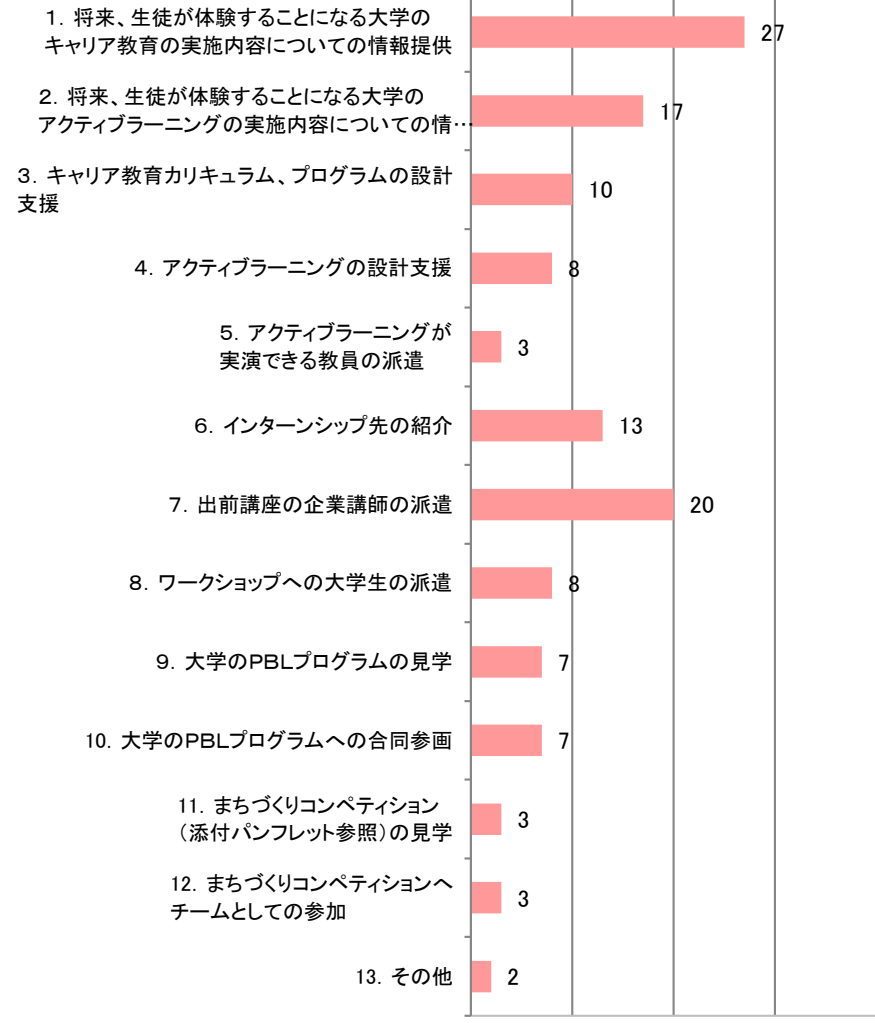
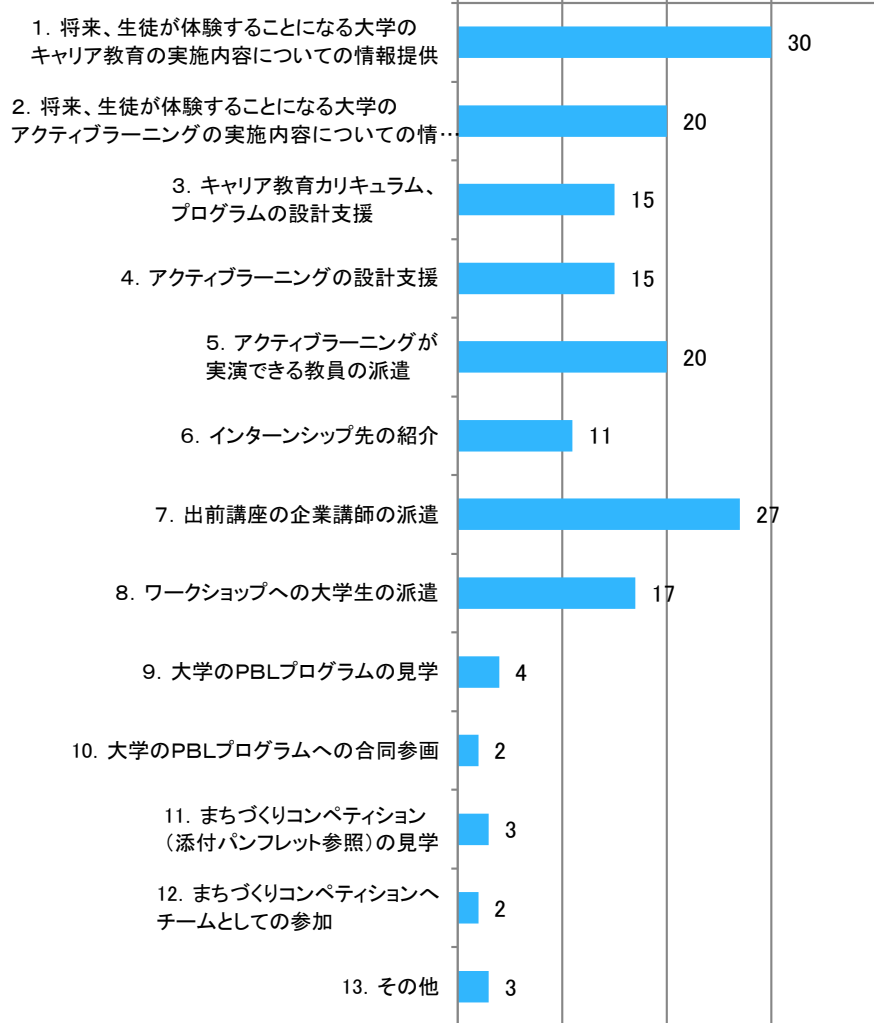
大学でのキャリア教育の内容を知りたいニーズ、企業講師の派遣ニーズが強い

公立

私立

0 10 20 30 40 (校)

0 10 20 30 40 (校)



## ■大学、大学コンソーシアムの支援希望について コメント

### 公立

出前講座の企業講師の派遣の後に、(というか、情報提供)と追記  
今のところ特段の希望はない  
なし

### 私立

現段階では特に必要性を感じておりません。  
中学(併設)では以上の事は中学2年次より実施

## ■アンケートの分析

### ●キャリア教育について

全体的な傾向として、キャリア教育については、ほぼすべての高校で取り組んでいる。中でも教育庁が運営する東京都協議会においては、連携企業のコンテンツ紹介もあり、私立校よりも、メニュー提供環境においては充実していると思われる。さらに、都立高においては、正式なキャリア教科として「人間と社会」が始まり、キャリア教育の実施自体には環境が整備されつつある。

しかしながら、全体を概観すると、キャリア教育は多くの高校において、方針を決め、計画的に実施されているものの、実際の現場は各教員に任されており、全体的には内容を把握できない状態になっている傾向がある。さらに、キャリア教育自体の考え方が個々の教員の教育感によって相違があり、そのために品質についてもコンセンサスが取りにくい状況が見受けられる。これらによって、最終的な教育効果については、評価の仕方についてわからないという課題も生じていると思われる。

さらに、現実的には、キャリア教育の専担者が設けられないことから、キャリア教育推進のマネジメントが徹底できないという現場の実態もあることが見受けられる。

また、キャリア教育の実施に当たっては、「まず大学進学優先になるので、将来のことを考える視点があまり強くない」「行うべき教育活動が多岐にわたる為、実施に充てる特別な時間がなかなかとれない」といった、普通科課程上の課題もある。

整理すると、全体的にキャリア教育の機会提供には成功しているが、質の定義がしにくいいため、評価も困難という状況となっている。これがキャリア教育の本質的な課題と考える。都立高においては、「人間と社会」の開講によって、将来的には質の定義もされてくることが予想される。しかしながら、現実的には、もともと高等学校はキャリア教育の専門機関でないので外部講師など外部の協力を頼らざるをえない実態もある。そうなると、ますます、内容についての学校側のコントロールがしにくくなり、外部講師の人選や、出来栄によって、キャリア教育の成果が変わってくるという現実がある。



## ■アンケートの分析

### ●職業教育について

このような中、職業教育においては、ほとんどの高校が必要としているが、実際には意識して個別に行うというよりも、キャリア教育の中に含んで実施しているケースが多いと思われる。つまり、実際の運営上は、キャリア教育と職業教育ともに、様々な経緯で招聘した外部講師が個別具体的な職種であった場合に、キャリア教育と職業教育が同時に実施されているパターンが多いと思われる。

職業教育が必要であると多くの高校が指摘するところであるものの、十分な実施ができないという実態がある。その大きな要因としては、実施時間がないことが指摘されている。

しかしながら、汎用的な社会的、職業的自立スキルを涵養するキャリア教育ではあるが、個別具体的な職業と紐づいてはじめて、生徒は汎用的なスキルの意味を理解できるものとする。(〇〇の仕事をするためには、〇〇の能力が必要といった意味合い。)とはいえ、具体的な職業について学校で教える時間には大きな制約がある。この点について、アンケートの中で指摘されている「将来の進路を構想するための、職業や大学を調べる」といった生徒の自主的な努力を誘発する教育方法は重要であると認識できる。また、同様に指摘のある「職業選びや大学選びに関する講演」といった、生徒の具体的な職業選択に向けたキャリアを俯瞰する動機付けセミナーはさらにそれ以前の基本的なものとして重要であることは言うまでもない。

次に、課題となっている、外部協力者の開拓であるが、職業教育自体の外部講師の適切性であるが、企業講師については、実際に受け入れ側の当事者にヒアリングしたところ、職業教育がより必要な高校はむしろ敬遠され、それよりも中学校、小学校が人気があるとのことだった。この点職業教育実施の量的な担い手である企業の立場からすれば、CSRでの取り組みとして、講師派遣を行っており、その場合、明快な反応があるし、小学生や、中学生に教えるほうがやりがいを感じるといった意見があった。また、企業からすれば、CSR活動を外部に広報するとき、CSR報告書の絵的にイメージが伝わりやすい、小、中を選ぶという狙いもある。

また、さらに教材についての課題である。個別職業について生徒が学ぼうと思ったときに適当な教材がないという状況があると推測される。個別の職業教育ツールの代表的なものとしては、「13歳のハローワーク」という職業選択図鑑があるが、それ以外には資格を中心としたもの以外に特にない。ただ、「13歳のハローワーク」は資格や、小説家やミュージシャンといった個人事業主への道が主体となっている。一般企業に就業する生徒が多いことを考えると、業種、業態についての図鑑などの教材が必要となるが、それは「会社四季報 業界地図」といった、大学生の就活本になってしまい、高校生用のものはないのが実態である。

## ●起業家教育について

起業家教育の提唱がされてきた歴史がありがたいこともあり、職業教育以上に、起業家教育については実施されていない。また、起業家教育の定義も浸透しておらず、起業家教育については、意義自体についての疑問が多いことが把握できた。

起業家教育は、イノベーションを起こすリーダーシップを育成するものとする。我が国においては、第2の経済大国として、米国をキャッチアップして行動すると自然と成果がついてきた過去は遠いものとなり、自ら先頭に立ち、イノベーションを起こしていく人材育成が急務となっている。しかしながら、起業家教育は、実際にイノベーションを起こした人材でないと、教えることが困難であるため、職業教育よりも質の担保がより一層困難である。しかし、一方現実的に高校生起業家も生まれるようになってきているのも事実である。そこで、質以前に、起業家教育については、キャリアの類型が、経営者(起業家)、雇用者、公務員と大きく3類型が考えられ、キャリアの選択肢として、フレームワークだけでも早期に提示する必要があるのではないか。また、実際に活躍している内外の起業家の事例も、少なくとも数例を教える必要があるのではないか。

## ●キャリア教育のアクティブラーニング実施について

アクティブラーニングについては、外部と接触する機会の多いキャリア教育においては、実施が比較的容易であると思われる。これは、アンケートの実施事例の多さからも推察される。また、都立高校においては先進校での取り組みがはじまり、今後の都立高全体での取り組みが期待される場所である。しかし、「アクティブ・ラーニング」言葉の独り歩きもあり、2020年実施の新学習指導要領では、アクティブラーニングという用語自体の表現が使われない動きとなっている。

## ●大学、大学コンソーシアムの支援について

先のアクティブラーニングにおいては、当法人の産公学連携を生かし、インターンシップの機会等の積極的な提供が必要となる。また、大学における、キャリア教育の実施情報等のニーズも高く、PBL等でより経済や社会に深くコミットして活動している事例等を紹介することにより、生徒に大学の学びの興味関心を喚起する必要もある。

当法人としては、各高校のニーズを踏まえることが、入学いただく生徒募集にも影響することであり、本アンケートを踏まえた高校支援策を積極的に検討していきたい。

## ■問題提起（まとめにかえて）

### ●社会問題としてのキャリア教育

将来、社会人として活躍する自立意識をもった人材育成を行うためには、初等中等教育段階におけるできるだけ早期の進路選択が好ましい。(ドイツのように12歳で決まるのは早すぎるとしても。)なぜなら、生徒の将来の職業が早く決まっていれば、それに向かって努力する時間の確保や、進路選択がより現実的なものとなるからである。高校時における進路選択についてもっと具体的に言えば、将来就きたい職業イメージが明確にあり、そのための高等教育機関としての大学選択というプロセスがあるならば、その大学に入るための勉強方法もより具体化するとういことである。本来進路選択はそうあるべきであるが、我が国は先進諸国と比べ、職業教育に入るタイミングがかなり遅い。したがって、将来の職業イメージが薄い中、大学を選択し、その大学における将来に必ずしもつながらない専門分野を勉強し、就活に挑むことになる。この結果、就職ミスマッチ問題が生じており、3年以内に3割以上の学生が退職をしているという現実がある。つまり、キャリア教育は社会問題であるといえる。職業選択が遅れると、大学選びが偏差値や、就職に強い大学といった観点での大学選びになってしまう。このような職業教育が遅れる我が国特有の社会慣習の中にあり、まさに、普通科高校は、学校の評価が、偏差値の高い大学にいくら合格させたかによって決まってくるという現実もあり、目先の大学受験対策に注力せざるを得ない実態がある。

このような中、効果的なキャリア教育、職業教育が求められている現実がある。しかしながら、高校はキャリア教育や、職業教育の専門機関でないとすれば、限られた時間内に、いかに効果的に教育を行なうかがポイントとなる。

そのためには、社会の協力なくしては実現できないということを、学校任せにせず、家庭や地域社会共通の問題認識とすべきである。

#### ①キャリア教育のベース情報

キャリアの類型(経営者、雇用者、公務員の3タイプ。業務委託を入れると4タイプ。)と類型間の移動について。わかりやすく言えば、雇用者から経営者。雇用者から子育て期間だけ在宅の業務委託等。

②生徒が、自身の将来のキャリア、職業に目を向けることができる良い外部講師の供給、インターンシップ提供などの教育機会の供給

③個別具体的な職業を学べる教材、職業教育は、将来性のある業界における、特定個別企業での事例をいくつか学校では学び、あとは生徒の関心事項において、自己学習(反転学習等)をする必要。

③高等教育(大学)における、さらに高度なキャリア教育の内容紹介による大学紹介

この点、当団体は大学を中心とする、産学公の連携する公益組織であり、都内高校への情報提供、キャリア教育の機会提供は可能であることから、より積極的にリーダーシップを持ち参画が求められていると考えられる。キャリア教育は、地域の人材育成ととらえ、積極的に協力すべきである。

■1 回答者の方のお立場をお伺いします。どれか一つに○をつけてください。

どちらかに○をつけてください。

- ・ 公立高校
- ・ 私立高校

■2 回答者の方のお立場をお伺いします。どれか一つに○をつけてください。

- ・ 校長
- ・ 副校長
- ・ 教頭
- ・ キャリア教育担当教員
- ・ 上記以外の教員

■3 キャリア教育について

①キャリア教育実施の現状について伺います。当てはまるものすべてに○をつけてください。

- ・ 全校的に各教科ごとのキャリア教育の進め方について基本方針がある
- ・ 全校的に各教科ごとのキャリア教育の進め方について計画がある
- ・ 全校的に各教科ごとのキャリア教育の進め方について定期的な会議や研修がある
- ・ 全校的に各教科ごとのキャリア教育の進め方について毎年改善していく仕組みがある
- ・ 各教科ごとに運営が任されており、教員はキャリア教育を意識して取り組んでいる
- ・ 各教科ごとに運営が任されており、教員はキャリア教育をどれだけ実施しているのか把握できる状況にない
- ・ 実施していない

②キャリア教育を主要な科目として取り組んでいる授業はありますか？当てはまるものにすべてに○をつけてください。(取り組んでいる場合のみ回答)

- ・ ホームルーム
- ・ 上記のうち人間と社会(都立高校のみ)
- ・ 総合的な学習の時間
- ・ 特別活動

③実施内容について伺います。当てはまるものに○をつけてください。(取り組んでいる場合のみ回答)

- ・ インターンシップ
- ・ 職場見学
- ・ 外部講師による出前セミナー
- ・ 社会人インタビュー
- ・ ワークショップ 内容
- ・ その他 内容

④外部の協力機関について伺います。(取り組んでいる場合のみ回答)  
協力機関名をご記入下さい。(複数ある場合は複数。当法人から連絡が行くことはありません)

⑤課題についてお聞かせください。当てはまるものに○をつけてください。

- ・ キャリア教育の定義がよくわからない
- ・ キャリア教育の専任者がいない
- ・ 学習指導要領がないので教えるべき内容がよくわからない
- ・ キャリア教育によってどのような能力を身につけさせるべきなのか明確にイメージがつかない
- ・ キャリア教育の解釈が教員によってバラバラであり、内容も教員独自の方法によるので教育品質水準が一定に保てない
- ・ 学習効果の評価方法がわからない
- ・ 外部のコーディネータに任せきりになっている
- ・ 外部(講師など)を招いているが指導内容が不十分である
- 不十分な点
- ・ 教材が不足している
- ・ その他
- ・ その他

■4 キャリア教育の中での職業教育について伺います。

①普通科高校の個別具体的な職業教育についてお聞かせください(どちらかに○をつけてください)

- ・ 普通科高校もできるだけ具体的な職業について教えたほうがよい
- ・ 普通科高校は具体的な職業について教える必要はない

②個別具体的な職業教育の課題について伺います(あてはまるものに○をつけてください。)

- ・ 職業教育に使う時間がない
- ・ 職業教育で教える個別職業に偏りが生じている(教材がある職業、とない職業の偏り)
- ・ 職業教育で教える適当な教材がない
- ・ 職業教育を支援してくれる外部協力者がいない
- ・ 職業教育を支援してくれる外部協力者を複数開拓するのが大変である
- ・ その他

■5 起業家教育について

①実施の有無

- ・ ある
- ・ ない

③ 有の場合  
内容

③無の場合

- ・ 今後の取り組む予定 内容
- ・ 予定はない

④課題について教えてください。あてはまるものに○をつけてください。

- ・ 高校として起業家教育を行う意義がよくわからない
- ・ プログラムがない
- ・ プログラムの設計の仕方がわからない
- ・ 供給先のプログラムがあるが、効果が疑問である

■6 キャリア教育のアクティブラーニング実施について

- ・ 講義形式中心で一部に取り入れて実施
- 内容
- ・ アクティブラーニングですでに実施
- 内容
- ・ アクティブラーニングで実施予定
- 内容
- ・ 実施していない

■7 大学、大学コンソーシアムの支援希望について

当てはまるものに○をつけてください

- ・ 将来、生徒が体験することになる大学のキャリア教育の実施内容についての情報提供
- ・ 将来、生徒が体験することになる大学のアクティブラーニングの実施内容についての情報提供
- ・ キャリア教育カリキュラム、プログラムの設計支援
- ・ アクティブラーニングの設計支援
- ・ アクティブラーニングが実演できる教員の派遣
- ・ インターンシップ先の紹介
- ・ 出前講座の企業講師の派遣
- ・ ワークショップへの大学生の派遣
- ・ 大学のPBLプログラムの見学
- ・ 大学のPBLプログラムへの合同参画
- ・ まちづくりコンペティション(添付パンフレット参照)の見学
- ・ まちづくりコンペティションヘチームとしての参加
- ・ その他